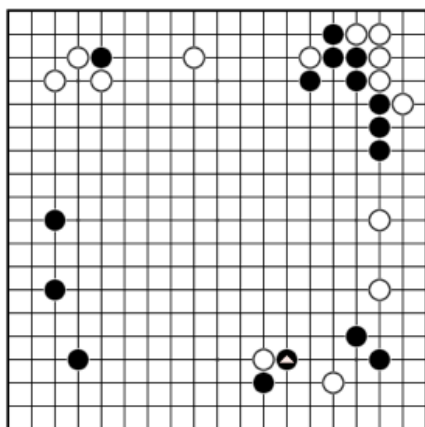


下手が読む手 上手が読まない手



白の上ツケにこのハネが第一感？
そんなあなたに必読の書

羽 伸太

出版 IGOホールディングス

推 薦

「低段者と高段者の読みの違いが分かりやすく
説明されてて、上達の手助けになりそう。」

万波奈穂三段 日本棋院棋士

「会話調で楽しい。こんな囲碁の本もあったのか。
内容は高レベルだけど級位者でもOK。」

稲葉禄子 囲碁インストラクター

下手が読む手
上手が読まない手

推薦文紹介

万波奈穂さん 日本棋院棋士 三段

読みは、コツを掴むだけでグッとスピードがアップします。

この本では、低段者と高段者の読みの違いを分かりやすく説明してくれています。きっと皆さんの上達の手助けとなるでしょう。

稲葉禄子さん 元院生 囲碁インストラクター

囲碁の本って難しいと思いませんか？

それが、こんな本もあったのかっていう感じ。

会話調なので楽しいし。

内容は高レベルだけど、棋譜は一手ずつ進めてあるので級位者でも十分読めるでしょう。

美子さんが、わたし、なのかどうか唯一気になる。

わたしであってほしいとも思う。

目次

はじめに

No.0 古碁研究会のはじまり

No.1 道悦(白)vs道策(黒) 35手目

ユカ先生のポイントおさらい No.1

No.2 道悦(白)vs道策(黒) 41手目

ユカ先生のポイントおさらい No.2

No.3 道悦(白)vs道策(黒) 43手目

ユカ先生のポイントおさらい No.3

No.4 道策(白)vs道悦(黒) 83手目

ユカ先生のポイントおさらい No.4

No.5 道策(白)vs道悦(黒) 41手目

ユカ先生のポイントおさらい No.5

No.6 道策(白)vs道悦(黒) 44手目

ユカ先生のポイントおさらい No.6

No.7 道策(白)vs春知(黒)二子 28手目

ユカ先生のポイントおさらい No.7

No.8 道策(白)vs春知(黒)二子 35手目

ユカ先生のポイントおさらい No.8

No.9 道策(白)vs春知(黒)二子 143手目

ユカ先生のポイントおさらい No.9

[No.10 道悦\(白\)vs道策\(黒\) 37手目](#)

[ユカ先生のポイントおさらい No.10](#)

[No.11 道悦\(白\)vs道策\(黒\) 47手目](#)

[ユカ先生のポイントおさらい No.11](#)

[No.12 道悦\(白\)vs道策\(黒\) 75手目](#)

[ユカ先生のポイントおさらい No.12](#)

[No.13 道悦\(白\)vs道策\(黒\) 31手目](#)

[ユカ先生のポイントおさらい No.13](#)

[No.14 道悦\(白\)vs道策\(黒\) 107手目](#)

[ユカ先生のポイントおさらい No.14](#)

[No.15 道悦\(黒\)vs道策\(白\) 35手目](#)

[ユカ先生のポイントおさらい No.15](#)

[No.16 秀策\(白\)vs秀甫\(黒\) 70手目](#)

[ユカ先生のポイントおさらい No.16](#)

[No.17 秀策\(白\)vs秀甫\(黒\) 96手目](#)

[ユカ先生のポイントおさらい No.17](#)

[おわりに](#)

はじめに

低段以下のみなさん、高段以上の上手の人達は、次の着手を決めるときに、自分達よりも多くの変化を読みまくってるから強いんだと、そう思っていないませんか？

実は私は、完全にそう思っていました。

上手は下手が読む手は当然読んでいて、それ以上の手を読んでいるから強いんだと。

ところが、どうやらこれは違うみたいなんです。

上手は、下手が必死に読んでる悪手や無理手は読んでいないんです。

上手は最初から良い手しか読んでいない。悪い手は思いつかない。だから強い。

良い手しか読まない上手の読みは、とても効率が良いのです。

もちろん、上手は手を読むスピードも早いですが、それ以上に読む手の質が高い。

だから極端な話、高段者が読まずに第一感の手だけを打っても、低段者はまるで敵わないのです。

この事を低段以下で伸び悩んでる同志のみなさんになるべく分かりやすくお伝えしたくて、この本を書きました。

この本では、我々アマチュア低段者がいかに無駄な手を考えているのか、高段者はいかに効率よく良い手を選んでいるのかを、具体的に示していきます。

なお、本書に登場する人物、状況設定等は全てフィクションです。

会話の内容は、著者とインストラクター氏の間で実際に交わされたものをベースに、読みやすく脚色したものです。

本書で扱っている棋譜は、全て道策を中心にした古碁を題材にしていません。

また、本書における下手とは蛤さん個人、上手とは美子先生個人のことです。

当然ながら棋力が同程度でも人によってどの手を読むかは、個人差があります。

便宜上、下手が読む手、上手が読む手として断定的に表現していますが、これらはあくまでも目安です。

下手と上手、それぞれが持つ感覚の違いを感じ取ってもらえれば、きっとみなさんの棋力向上に役立つものと信じています。

登場人物

- 蛤さん …… 定年間近の窓際サラリーマン。アマ三段。
囲碁サロンの常連客。
ここ10年、三段格から上がれない。
最近一念発起して、古碁の勉強を始めたばかり。
- 美子先生 …… 囲碁サロンのオーナー兼インストラクター。
元院生のアマ七段。
子供の頃に囲碁を覚えてすぐ上達し、級位者時代の記憶は無い。
年齢不詳の美魔女。
- ユカ先生 …… 囲碁サロンの入門・初心者指導担当の
美人インストラクター。
大学時代に囲碁を覚えた努力派。アマ五段。
27歳、未婚。

No.0 古碁研究会のはじまり

都内某所の高級囲碁サロンの片隅で、一人で棋譜並べをしていた50歳くらいの男性が、ふと声を上げた。

「え？ なんでこっちじゃないんだ？」

その男性は石を置く手を止めて、腕組みをしたまま考えこんでしまった。

「蛤(はまぐり)さん、どうしました？」

囲碁サロンのオーナー兼インストラクターの美子(よしこ)先生が、いつもの愛らしい笑顔で声をかけた。

蛤とアダ名で呼ばれたその男性客は、碁石を集めるのが趣味で、二言目には蛤碁石の見分け方など、うんちくを語るのでサロンでは皆からそう呼ばれている。本人もまんざらではないらしい。

「いえね、道策先生の碁を並べてるんですが、どうしてここでハネ出さないのかなって、考え出しちゃったんですよ。美子先生、どう思いますか？」

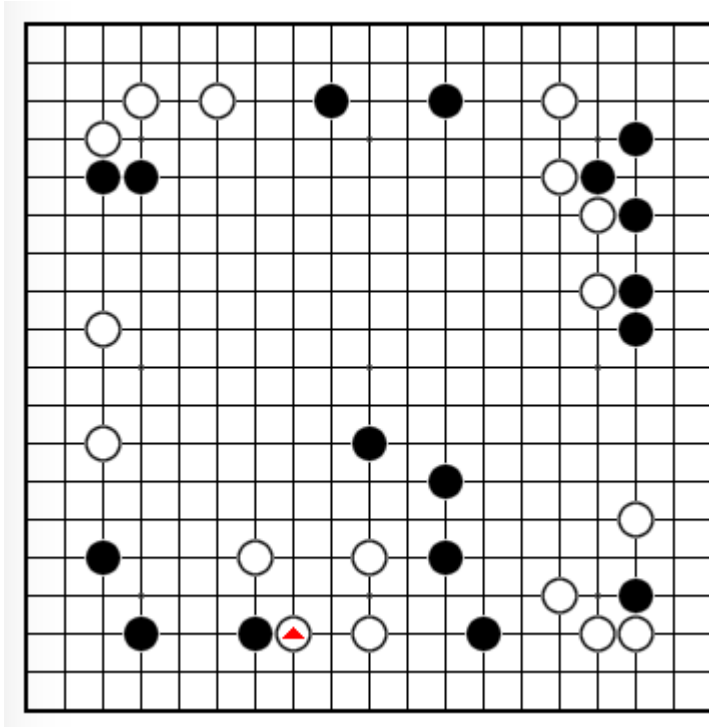
「へー、面白そうですね、どこですか？」

「(おや？ 何か面白そうなことが始まりそうだね。見学しちゃお。)」

同サロンの若手女性インストラクターのユカ先生もそっと見物に来た。

こうして囲碁サロンの片隅で、蛤さんと美子先生と、見学者1名の古碁研究会が始まった。

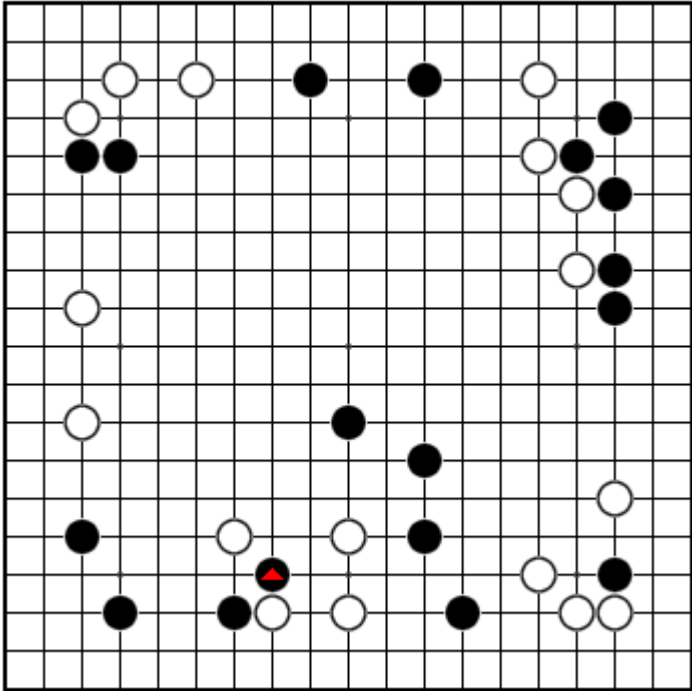
No.1 道悦(白)vs道策(黒) 35手目



局面図1

蛤 「ここなんですけどね、白が下辺の黒にツケたところで黒番です。」

美子 「はい。ああ、ここはあまり選択肢が無いですね。蛤さんはどこに打ちたくなるんですか？」

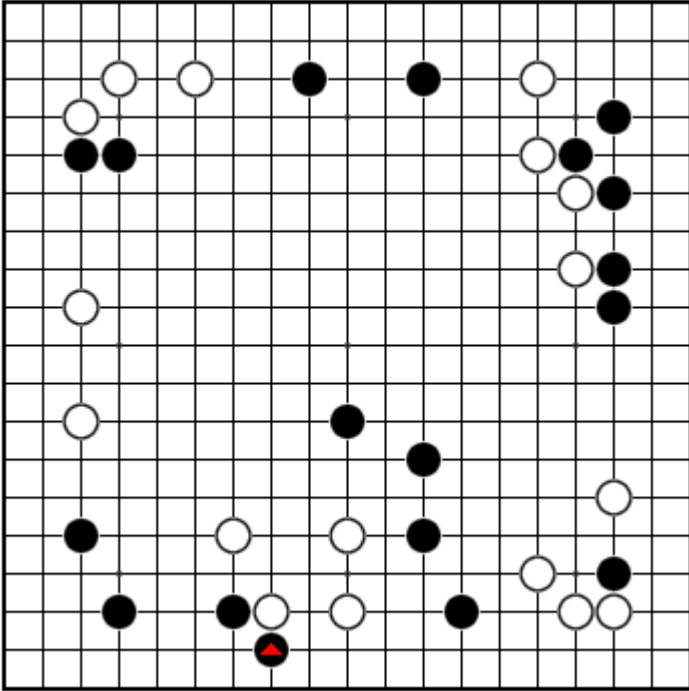


参考図1-1

蛤 「参考図1-1のハネダシです。どう見てもこの一手でしょう。白に切らせて中の1子を取らせれば、周りが黒で固まる気がするんですよ。でしょ?」

美子 「(うわ、悪い手だなあ··)うーん、厳しそうな手ですね。でも私はハネダシは全然考えませんよ。ちょっと無理筋というか筋悪すぎな感じがしま、あ、ごめんなさいね。(微笑)」

蛤 「いえ、いいんですよ。本当のことなんだから。で、美子先生ならどこですか?」



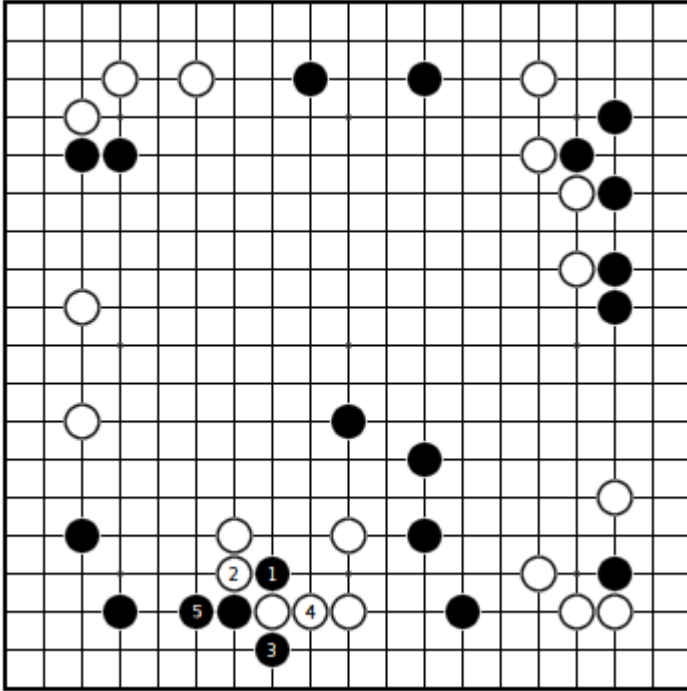
参考図1-2(実戦)

美子 「私なら参考図1-2の下ハネですね。根拠に関わるし、地も辛そうです。」

蛤 「さすがですね。その下ハネが道策先生の実戦です。」

美子 「(当然の一手なんだけど)あらそうなの？ うれしい！ あと、下ハネの左に単に下がるのも考えます。白に調子を与えないように。」

蛤 「そうですね。でも、何でハネダシじゃダメなんですか？ 白4子の外側に黒の援軍も居るし、ここは強く戦うところに見えるんですよ。」



参考図1-3

蛤 「参考図1-3で1とハネダシた後5までとなるのが読み筋なんですけど、これはダメですか？」

美子 「これは無いですね。白が自然に固まって安心しちゃうし、白に不安が無ければ中央の黒が逆に薄みにすらなりそうですね。何より黒が後手ですね。」

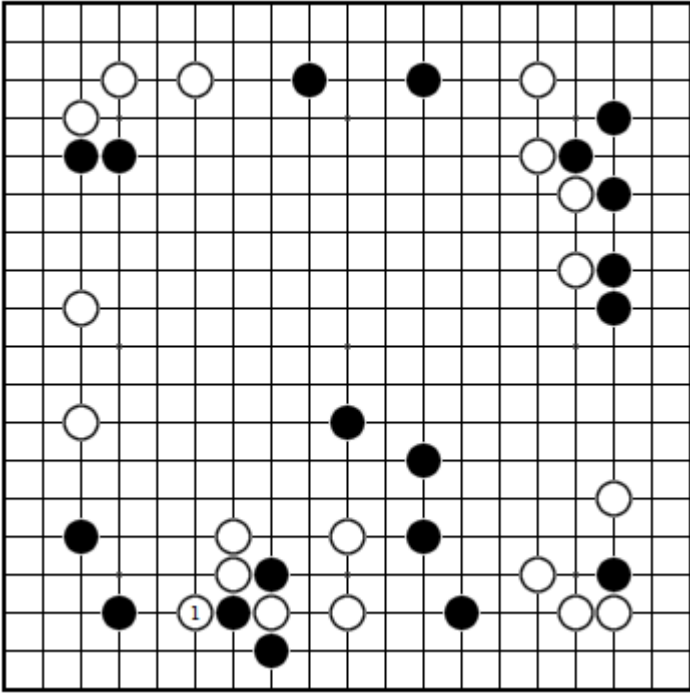
蛤 「ふーん、そういうもんかなあ。ところで疑問なんですけど、実際に美子先生の頭の中ではこの図が不満だからハネダシを考えないのですか？つまり、この図を一応考えてみてから候補手から捨てるのか、そんなこと考えもせずにハネダシを捨てるのですか？」

美子 「ハネダシは最初から考えてないですね。だからこの参考図1-3も頭の中には出てきません。不思議ですね。何でかしら。」

蛤 「ひょっとして、下辺星の上下にある白石のどちらかが無かったりしたら、ハネダシも考えます？」

美子 「ああ、それなら考えますね。なるほど、周囲の石の有無によって無意識に手を選んでるんですね。面白いですね。」

蛤 「やっぱりそうか。読む手を選ぶときに、見てる範囲が広いんですね。私はツケられたら周りに関係なくまずハネダシを考えて、結果がダメなら下ハネを考える。そういう感じです。参考図1-3が悪く見えないというのも、これはこれで問題だなあ。」



参考図1-4

美子 「参考図1-3の白4ですけど、勝手読みかも知れませんよ。

参考図1-4の1にアテ返されて反発されることもあります。すると左下隅の黒2子が攻撃目標にされるかも知れませんね。」

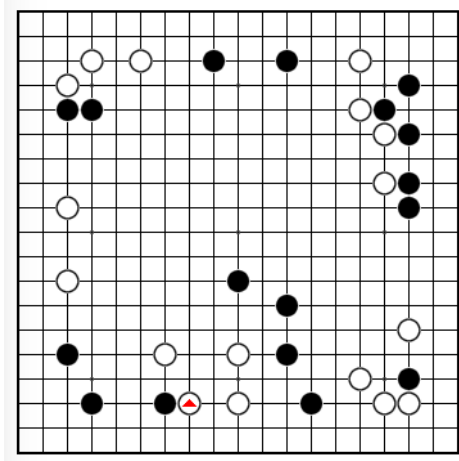
蛤 「うわっ、厳しいですね。ただそうすると驚くべきことには、下辺星上下の白2子の有無だけでなく左下隅黒2子も無意識に関係させて、全く読む事なしに最初のハネダシが候補手から消えてるってことですよね。手を選ぶ際の見えてる範囲がとても広いんだってということが、良く分かりません。」

美子 「何でしょうね。経験かしら。たぶん、高段者以上になると、最初の局面図1でのハネダシは全く頭に浮かばないと思いますよ。」

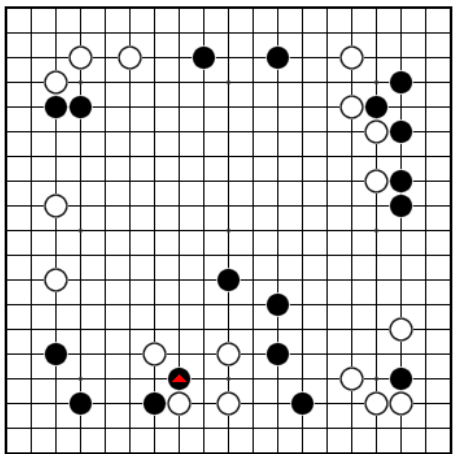
蛤 「上手が端から読まないような無駄な手を、下手は一生懸命読んでるってことですね。この差は大きいですね。」

美子 「ですね。(にっこり)」

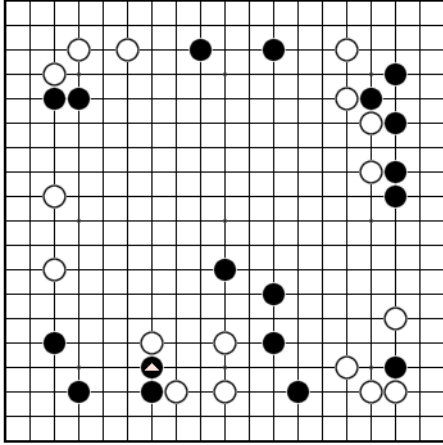
ユカ先生のポイントおさらい No.1



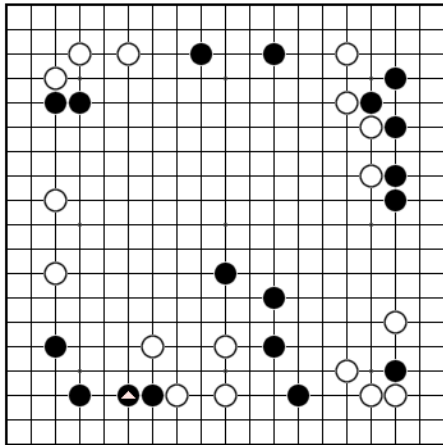
局面図



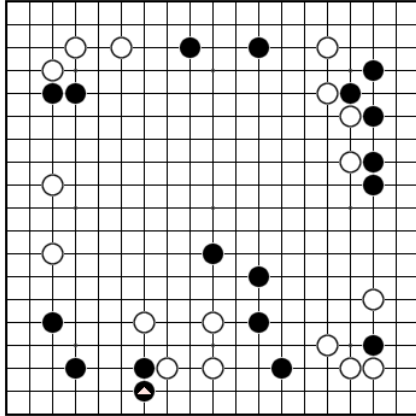
下手が読む手(上手が読まない手)
読む度15%



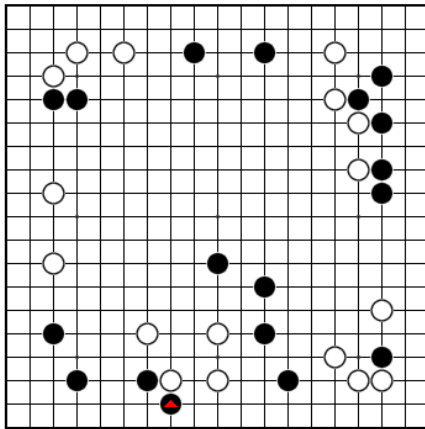
下手が読む手(上手が読まない手)
読む度15%



下手が読む手(上手が読まない手)
読む度0%



上手が読む手(下手が読まない手)
読む度80%



上手が読む手(下手も読む手)
読む度90%

ユカ 「正直なところ、ハネダシは私も読む手です。でも、読んでから不採用にする感じ。読まずに悪いと分かる、というより最初から悪い手は考えもしない美子先生は、やっぱりスゴいわね。各候補手について、美子先生が読むかどうかの感覚を0~100%で数値化してくれたから、忘れないように記載しておきますね。」